

『どうぞこれから宜しくお願い致します』

# 副院長のからのご挨拶

宮本歯科 副院長の高野尾 望です。

今年から、宮本歯科で副院長として赴任して参りました。

少しでも早く、皆様とのコミュニケーションが深められるように、簡単に私の経歴をなるべく分かり易く書いてみました。

**一人のドクターとしての  
私の歯科治療に対するこだわりを、  
少しでも知って頂ければ嬉しいです。**

高野尾 望

## 歯科医としての出発点

私が歯科医師となり、早や<sup>15</sup>10年以上が経とうとしています。

歯科医師国家試験に合格後、松本歯科大学 障害者歯科学講座に籍を置き、笠原 浩教授の下で、重度障害者に対する全身麻酔下における集中歯科治療や、施設を巡回しての診療、乳幼児における歯科恐怖症の方の診療に携わりながら、学習をさせて頂きました。

そのような患者さんに対してもしっかりと治療が行えることが、本物の歯科医師になるために必要であると感じたからです。

ここでは、痛みを自分自身で訴えることができない患者さんや、逆に最も純粋に痛み反応しやすい患者さんであるからこそ、無痛での治療は絶対に必要とされる条件でした。

麻酔の注射を打つにしても、「静かに、ゆっくりと、圧を与えずに」注射を打つことにより、注射が気付かないほど痛みを軽減することだってできるのです！その為には自分のスキルを常に高めていくことが大切です。（もちろん大変難しいことなのですが・・・）

また、お口の中の管理が自分ではできない方に、「どうすればブラッシングや入れ歯の扱いを上手に安心して理解して貰えるか？」という方法論などを研究し、即実践をして参りました。

患者さんとコミュニケーションが取れない状況では、そのような患者さんの面倒を見ているご家族の方の気持ちが痛いほどわかります。どうしても家にこもってしまう方が多いので、治療をいかに安心して受けてもらえるかが治療そのものと同じくらい重要になってきます。

**人として、歯科医師として生きるに際して、この時の診療科には人生の本分が詰まっていたと思います。**

施設の巡回を行なった際に、ある施設で初めて患者さんからお礼を頂いたことを今でも忘れません。施設に入所中のお子さんからでした。

それは 1 通の手紙に記されており、中には、私とお子さん自身を描いた絵と、その子の母親が飲食店を営んでいる事もあってか、

「先生いつもありがとう 今度 かあさんの お店に あそびにきてください。」とありました。

*この手紙を頂いたときの気持ち、それが今の歯科医師として生きるチカラとなっております。*

弁護士であった父が他界したのを機に、大学病院を出て、勤務医としての道を歩むことになりました。

一般開業医として働いてゆくにあたって、そこで必要とされるものは多種多様の診療であり、それを求めてなるべく多くの歯科医院に勤め、そこで学んだ事を自分の力にしてゆこうと勤めて参りました。

しかし、比率で言えば、「これで医療機関といえるのか？」という医院が世の中の多数を占め、幾度となく、歯科診療に対する「危機感」「絶望感」を抱かされて参りました。このような歯科医院の院長とは診療の方針を巡って言い争いをした事もありましたが、所詮私は勤務医の身でしたので、変革をその歯科医院にもたらすまでも無く、その場を無念に去らざるを得ない、といった状況もありました。

そしてその都度、本当の意味での歯科医師を求めて、これまで転々として参りました。そんな時に今、私がいる、宮本歯科の宮本晃宏先生に出会うことが出来ました。

私が様々な歯科医院で様々な歯科医師を見てきた中で、一番医療の本質として必要であるべきもの、全ての人が見失っているもの、うまく表現ができないですが、「心（こころ）の部分＝メンタルの部分」をまず一番に考えてそこから治療を行うことができる先生であると感じました。

通常であれば、「痛ければ、そこだけを直してハイおしまい。」となるところを、もしくはひどい歯科医院であれば「このような治療を行なえば高く点数がとれる」そう思うところを、まったくの真逆であり、患者さんの心の部分に働きかけ、「患者さんの健康のために治療する」という意思を強く感じました。

このような場所でこのような機会を与えてくださった宮本先生に感謝すると共に、宮本歯科にこられる患者さんに私が学んだことを今は少しでも還元できればと考えています。

これからの歯科医療は、私が大学病院時代に師事した笠原教授が仰っていた、キュア（CURE＝狭義の意味での治療）から、ケア（CARE＝健康管理を含めた広義の意味での治療）へと移ってきています。

高齢化が進む中で、単に「長生きさせる」ことよりも、「長生きを楽しめる＝QOL（クオリティー・オブ・ライフ⇒生活の質）の維持向上」に役立つ医療が求められてきています。

そのような中で「選ばれる歯科医師」になるためには「親切で信頼できる歯科医師」による「納得のできる歯科医療」でなければなりません。

「素人は黙って歯科医師に任せておけ！」では患者さんの納得は得られません。「人間的歯科診療」こそがあるべき姿と考えます。この診療を実践するためには

**「腕前＝HAND」**

**「頭脳＝HEAD」**

**「やさしいところ＝HEART」**

そして、それを支える

**「成熟した人格」**

が必要です。

日進月歩する医療のなかで、これらを得るため私は生涯学習をし続け、出会う事のできた患者さんへこの人間的歯科診療を提供できるよう努力していきたいと思えます。

**私が心がけていること**

**～患者さんが満足できる場所を提供するために～**

## 1. 痛みの無い治療

患者さんが歯医者に行きたくない一番の理由は痛いからです。いかに痛みの無い治療を患者さんに提供ができるか。まだまだ私も勉強中ではありますが、格段に進歩した無痛での治療をこれからも行っていきます。

## 2. グローバルに診る

そこが痛いのでその部分だけを削って詰めて・・・、では無く、基本的には体全体の一部として全てを総合的に見ていく必要があると思います。その為には自己研鑽を行い、歯科分野だけでなく、歯科以外にも業種を問わず様々な知識を幅広く吸収するようにしています。

## 3. 患者さんに笑顔で帰ってもらおう

歯科医院は嫌われ者です。そのような歯科医院でいかに安心して笑顔で帰ってもらえるかが腕の見せ所であると考えています。治療を受けていただいた患者さんに、「宮本歯科に任せたら安心だ」、とっていただけよう、日々努力していきます。

**さいごに・・・**

宮本歯科にこられて、治療される皆さまへ  
歯科治療は、どこでも同じではありません。  
宮本院長と共に、技術、知識、そして心の面で  
どこにも負けない歯科医院を目指してゆきます。

「宮本歯科に任せたら、絶対安心」といって頂けるようにがんばります。

いつまでもあなたが健康なお口と健康な身体を保っていけるように、これから一緒にがんばっていきましょう。

高野尾 望